

年 組 名前:



おおずもう ばんづけ 大相撲の「番付」 どのようなもの?

番付は力士の地位や序列が書かれた一覧表のことで、地位や待遇は番付によって決められています。力士の序列は上から横綱、大関、関脇、小結、前頭、十両、幕下、三段目、序二段、序ノ口と分けられています。日本相撲協会の番付編成会議が直前の場所(大会)の成績をもとに決め、序列によって番付表に書かれる名前の大きさが異なります。

「関取」と呼ばれる十両以上と、幕下以下の力士では待遇面で大きな違いがあります。幕下以下は無給で、場所ごとに本場所手当が支給される程度です。関取になると月給がもらえます。

給与以外の待遇にも差があります。関取は場所中の15日間、毎日土俵に上がります。関取には身の回りのことをやってくれる「付け人」がつかいます。サインをしたり手形を押

したりすることもできるようになります。身なりも変わります。関取は、髪は先端がイチオウの葉に似た形をしている大銀杏を結うことができ、きれいな刺しゅうなどが施された「化粧まわし」をつけて土俵入りします。稽古では幕下以下は黒まわしですが、関取は白まわしをしめることができます。関取の中でも前頭以上は「幕内」と位置づけられます。定員は42人と決められています。十両から幕内に昇進することを入幕といいますが、初めての入幕は「新入幕」、2度目以降は「返り入幕」または「再入幕」と呼ばれます。幕内力士のうち大関、関脇、小結を「三役」と呼び、前頭の力士は「平幕」と呼ばれます。番付には「東」と「西」があり、同じ番付でも東の方が上位となります。

9月11～25日に行われていた秋場所では

甲府市出身の竜電(高田川部屋)が8場所ぶりに幕内に復帰して、前頭西12枚目として挑み、幕内自己最多の11勝を挙げました。

番付表に書かれているのは力士の名前だけではありません。相撲協会の役員に加え、土俵上の進行役「行司」、取組の際に力士を呼び上げたり土俵を整備したりする「呼出し」、力士の髪を結う「床山」などの名前も書かれています。行司や呼出しなどにも階級があります。

力士の地位の最高位の横綱は大関で2場所連続で優勝するか、これに相当する好成績を残し、「品格・力量が抜群」と評価された場合に、横綱審議委員会の審査を経て推薦され、理事会で決まります。横綱は負け越しても地位が下がることはありません。

これから大相撲を見る時は番付に注目してみてください。 (市川和貴)

(2022年10月20日付 山梨日日新聞 週刊こぴっと2面)

問1

相撲の番付で、関取と呼ばれる地位に、○を付けてください。

- []横綱 []大関 []関脇 []小結 []前頭
[]十両 []幕下 []三段目 []序二段 []序ノ口

問2

次の文章の①から⑤に当てはまる言葉や数字を、答えてください。

『横綱になるには、①で②場所連続③するか、これに相当する好成績を残し、「④・力量が抜群」と評価された場合に、横綱⑤委員会の審査を経て推薦され、⑥で決定となる』

- ①..... ②..... ③..... ④..... ⑤..... ⑥.....